

本時のねらい

学習した表現を使って、世界中の中学生に好きな曲を紹介する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

紹介する場面として、より伝わりやすくするためのスライドショーを作成する。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ iPad
- ・ 書画カメラ
- ・ Keynote

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあて 「好きな曲を英語で紹介するスライドショーをつくろう。」 発表の際に必ず使うキーワードを確認する。 【アーティスト名、おススメの理由、聞いてほしい箇所、結びの言葉】 ○発表の評価について、ループバックを用いて確認する。 	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ○発表のスライドショーの作成 ループバックをもとに自分のスライドショーを確認しながら、作成を進める。 ○英作文に間違いがないか AET と一緒に確認をし、スライドに合わせて発表の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Keynote のスライドに写真、動画、英作文を挿入する。 ・リハーサル機能を使って、発表時間を把握し、必要に応じて、英作文を編集する。 録音をして、自分の発表を聞きなおすなどの練習も行う。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りを行う。 	

1人1台端末を活用した活動の様子

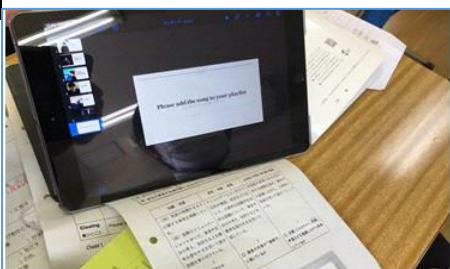


写真1：ループバックを元にスライドショーを作成している場面



写真2：機器の操作面も含めて、友だちと相談しながら進めている場面

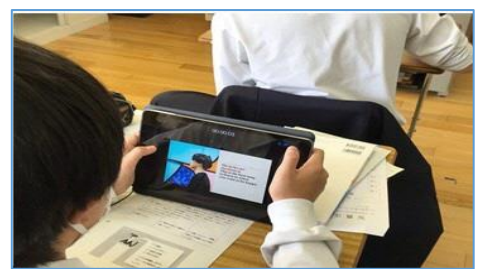


写真3：リハーサル機能を使って、自分の発表時間を把握し、よりよい形をめざしている場面

児童生徒の反応や変容

Keynote にも慣れてきて、自分の表現したいものをそのまま作成することができるようになってきた。

ループバックを用いることで、単元で身に付ける力や表現等、子どもたちもめざすべき発表がわかり、どうすれば相手に伝わりやすくなるのかを意識しながらスライドショーを作成することができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

Keynote を使ったスライドショー作りは 2 回目だったが、子どもたちはすぐに使い方に慣れて、写真の挿入だけでなく、動画の挿入もできていた。

スライドショーを作成することで、聞き手を意識した発表になり、また発表の構成も考えるようになるため、単元末のパフォーマンスを発揮する設定として、効果が大いのではないかと感じた。

iPad があれば発表のリハーサルができ、時間配分を把握するだけでなく、録音もすれば何度も自分の発表を聞くことができるため、よりよいものをめざそうという意欲の高まりにもつながる。